

国際教養コースには、実用的な英語を学ぶ「Plactical English」や日本固有の文化を学ぶ「日本文化」など、いくつかの独自授業があります。中でも、「協働探究ゼミ」は私が地域探究・貢献入試という入試方式を受験するに当たって特に役立ちました。この授業では、高1・高3がいくつかの班に分かれてそれぞれの関心に基づき探究活動を行います。例えば、校内で食べ物を集め、フードバンク茨城に寄付するフードバンク班や、水戸駅にて周辺の高校の吹奏楽部や茨城出身の有名人がステージライブを行い水戸の活性化を目的としたフェスを開催する町おこし班など、生徒それぞれが様々な活動を行っています。私は、不要となった人から参考書を回収し必要な人のもとへと届ける「参考書バンク」という事業を行いました。協働探究ゼミでは、自分の興味のあることから事業を立ち上げる企画力や、その企画がつつがなく進行できるようにする計画力、実現を見据えた話し合いの能力、そして最後まで全うする責任感など、普段の学校生活では身につかないような能力が必要になりました。また、協働探究ゼミの他にも、留学では母語の違う他者と関わるコミュニケーション能力や、とりあえず挑戦してみるという積極性なども必要とされます。このように国際教養コースでは、純粋な英語力や学力だけでなく、社会に出たときに必要になるスキルが習得できると思います。

3年間の一歩の思い出は高3のときの文化祭です。クラス企画では、くじ引きにより見事学年で1クラスだけのお化け屋敷枠を勝ち取り、文化祭準備期間の前にも、お客さんを驚かせるための設定やからくりを考えました。特に私は副委員長だったため、委員長と協力してクラス企画の話し合いのまとめや準備の指示、当日のシフト組みなどを行いました。国際教養コースでは、3年間メンバーが変わらないということもあり、クラス一体となって準備をするのがとても楽しかったです。有志企画では劇を行い、私は主要キャラクターを演じました。練習期間が短かったのでぶっつけ本番の部分もありましたが、最終的には無事成功し、見ていた人からも楽しい劇だったと感想をいただきました。文化祭の最終日には、はしゃぎすぎたのか体調を崩して保健室に運ばれてしまいましたが、それも含めて心に残る良い思い出になりました。

茨高の良いところは、勉強において上を目指すことができる環境が整っている点だと思います。1年生の頃から、基礎的な部分は定期的な小テストで、応用的な部分は放課後に行われる課外授業によって習得することができます。3年生になると教室の近くに自習室や職員室があるので、勉強に集中しやすかったり、わからない部分や勉強の仕方を教師に聞いたりすることができます。このような環境のおかげで、私は塾に入ることなく大学受験を乗り切ることができました。他にも、友人間で互いに応援するという雰囲気があるのも茨高の魅力だと思います。

大学では、1つの分野にしばられない横断的な学習を通して、多角的な視点から物事をみる能力を養いたいです。将来的にはメディア関係の仕事に就き、大学で学んだことを活かして、偏見のない正確な情報を社会に向けて発信して行きたいと考えています。